



えって危なくなる。今後計画的に進めたい。

◆道路の安全対策を

問 桔梗荘前の西幹線、現在は一部未完成だが安全対策はスピードを出す車が多く歩行者は危険。ヤマサスタンド前の交差点は非常に危険で、以前から住民やPTAから信号機設置要望があり、早期の対応が必要。今後の予定は。

(山口)

答 平成23年度完成予定、後に安全対策を実施していく。

◆県道御馬越塩尻線の改良を  
問 地元要望の強い中原交差点の改良計画は。  
(古畑)

答 地元地権者の合意形成を図っているが同意をいただけず、県と充分調整し早急な事業化に向けて要望を実施していく。



改良が望まれる洗馬中原交差点



農山村部の活性化を

地域の特性を活かした政策

◆農山村部の活性化について

問 農山村部の人口減少と少子高齢化は、更に進んでいくと予測される。今後塩尻市にとっても大きな課題となるが、どのような施策を考えているか。また、地域にあった「地域振興計画」を作ることが必要と思うが、その前に庁内に明確なプロジェクト仮称「農山村地域活性化推進委員会」を立ち上げる等、具体的な施策を図るべき。  
(横沢)

答 市や各地域において、それぞれの地域の特性を活かした取り組みをしている。これらの取り組みは、一つ一つの

効果としては未知数であり、まだ見えにくい部分もあるが継続的な取り組みが、結果として実を結んでくると考えている。庁内プロジェクト設置については、今後更なる施策の展開を図るためにも大変重要、かつ必要なものであり前向きに検討していく。

◆市長の政治姿勢について

問 市長は市民の声を市政に活かすと力説しているが、その具体的実践方法は何か。  
(務台)

答 地域住民との交流を密にして常に住民とともに考え、行動をして一体化することだと考える。

◆ぶどう栽培者への支援を

問 生産者の高齢化や取り引き価格の低迷で耕作者や栽培面積が減少している。市はどう考えているか。  
(古畑)

答 ワインはワイナリーと栽培農家の共存なくして成り立たないので支援していく。



塩尻市特産のぶどう



名古屋市に期間限定で開設したアンテナショップの様子

◆塩尻ブランドの融合を

問 塩尻市の知名度は低いが高めるための努力は。  
(務台)

答 ブドウ、ワインを中心に地域の農産物の紹介をする、その折に塩尻の歴史や文化遺産、伝統文化等融合を考える。

再出発で市街地活性化を

◆塩尻まちづくり会社

問 平成20年3月設立後2年程で解散し、新会社で再出発とのことですが、市の指導責任や19年度に交付した補助金等の返還と新会社の監査機能を強化する考えは。  
(永井)

答 市の出資金500万円は、財産等の目減りによる清算金として375万円払い戻しとなる見